令和　7　年度

事務事業評価シート【学校教育分野】

（　　学校教育課　　）

（ 学校給食共同調理場 ）

総合評価ランク

A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
D	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要

目　次

1　　こどもまんなかの学び
(1) 栄養教諭による食育指導 ・・・・・ 1
(2) スクールサポーター配置の充実 ・・・・・ 2
(3) 教育相談室設置事業 ・・・・・ 3

2　　みんなで支えるこどもの育ち（学校や地域でのつながり）
(1) 小・中学校作品展及び音楽交歓会の開催 ・・・・・ 4
(2) 学童スキー大会の開催 ・・・・・ 5
(3) 生徒指導委員会 ・・・・・ 6
(4) 学校支援推進事業 ・・・・・ 7
(5) 高校魅力化推進事業 ・・・・・ 8
(6) 給食費の無償化 ・・・・・ 9
(7) 大会派遣費補助事業 ・・・・・ 10

3　　こどもの学びを支える教育環境
(1) 学校における働き方改革 ・・・・・ 11
(2) 小学校改築事業 ・・・・・ 12
(3) 英語で元気なまちづくり事業 ・・・・・ 13
(4) ＩＣＴ環境整備事業 ・・・・・ 14
(5) 理科支援員の配置 ・・・・・ 15
(6) 教育広報の発行 ・・・・・ 16

事務事業評価シート

施　策　名	こどもまんなかの学び	担当課名	学校給食共同調理場
事務事業名	栄養教論による食育指導	担当者名	寺澤　いづみ

事業の目的・内容	［目的］自分で自分の健康を考えて食べ物を選んだり組み合わせたりできるよう、必要な知識や考え方を指導する。 ［内容］出前授業：小学校全クラス中学校全学年に栄養教諭が出向いて、食育に関する授業を行う。また、小学校では児童達と一緒に給食を食べながら観察している。			
事業の対象	小学校児童			
事　業　費	年　度	令和　6　年度決算	令和　7　年度決算	令和　8　年度予算
	金　額	－　　千円	－　　千円	－　　千円

事業の実績・成果等（数値）	・栄養教諭による食育指導状況 野辺地小学校　８回　　若葉小学校　６回 野辺地中学校　３回 ・バイキング給食実施回数　２回 野辺地小学校（５年生）　　若葉小学校（５年生）

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	【成果】栄養教諭と共に学び、共に給食を食べることが小さなきっかけとなり、嫌いな食材を食べることができたり、いつもより多く食べたりすることができるといった効果もある。 【課題】学校・家庭との連携が重要である。	
今後の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・専門性の高い栄養教諭による指導は、その授業を受ける児童だけではなく、担任はじめ教員の食生活改善につながっている。

・これからも食事と栄養の大切さを学ぶ機会として必要だと思う。

・食べた物で体は作られること、何をどのように食べたら良いかを学ぶ大切な時間なので、今後も続けてほしい。

・食育も大切なことであり、負担も多いとは思うが、続けてもらいたい。

・生きるということは食べることと直結するので、小さい時から関心を持ってもらうため、大変有意義な事業だと思う。

評価委員意見（令和7年度）

・今後も継続してほしい。参観日に実施することで、こどもたち、保護者への意識づけになるのではないでしょうか。

・食育を学ぶことは、文化を学ぶことでもあるので、今後も継続してほしい。

・家庭との連携についても、SNSで周知していることから各家庭の意見を吸い上げることができる。

・食への興味をそそる指導を専門性の高い栄養教諭が行うことで、正しい知識を身につける機会としてよいきっかけになっていると思われる。

事務事業評価シート

施　策　名	こどもまんなかの学び	担当課名	学校教育課
事務事業名	スクールサポーター配置の充実	担当者名	清水目　唯那

事業の目的・内容	町内学校において障害をもつ児童生徒や学習が遅れがちな児童生徒等の、特別な支援を必要とする児童生徒の生活や学習を支援するためのスクールサポーターを設置する。			
事業の対象	町内小・中学校			
事　業　費	年　度	令和　6　年度決算	令和　7　年度決算	令和　8　年度予算
	金　額	32,203 千円	39,481 千円	43,205 千円

事業の実績・成果等（数値）

○配置人数の推移

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
野辺地小学校	5 人	5 人	6 人	6 人	6 人
若葉小学校	5 人	5 人	6 人	7 人	7 人
馬門小学校	1 人	1 人			
野辺地中学校	1 人	1 人	2 人	1 人	2 人

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	町内学校においては、特別な支援が必要な児童生徒は年々増加傾向にあり、学校が要求するスクールサポーターの人数も増えてきているため、今後も企画財政課と調整しながら、できる限り学校の要望に応えていきたい。	
今後の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・サポーターの先生方がいてくれて学校として助かっている。通常の学級に在籍する特性を有する児童が増加している中で、適切な支援をしていただいている。

・各学校の要望に沿えるように事業継続をお願いする。

・継続を望む。

・児童生徒数が減少しているが、先生の負担を軽減するためにも継続が必要。

評価委員意見（令和7年度）

・学校としてはなくてはならない存在である。今後も継続していただきたい。

・教職員の負担軽減と合わせて、こどものサポートをする人が増えると、こどもの安心にも繋がるので継続が必要。

・大事なことなので一層頑張ってほしい。

・相談することで、心が軽くなることもあると思うので続けてほしい。相談員の確保を。

・担任の先生の負担を減らすためにも、これからも継続していただきたい。

事務事業評価シート

施　策　名	こどもまんなかの学び	担当課名	学校教育課
事務事業名	教育相談室設置事業	担当者名	清水目　唯那

事業の目的・内容	町勤労青少年ホーム内に野辺地町教育相談室を設置し、悩みを抱えているこどもたちや保護者、教職員に対して支援や助言を行う。 主任教育相談員１名・相談員１名、スクールソーシャルワーカー(SSW)１名。 相談受付：月～金、9時～15時			
事業の対象	児童生徒・保護者・教師			
事　業　費	年　度	令和　6　年度決算	令和　7　年度決算	令和　8　年度予算
	金　額	5,767 千円	6,332 千円	6,726 千円

事業の実績・成果等（数値）	○相談実績　（総計 365名） 面接相談（来室・訪問等）小学生9 中学生208 高校生42 他1　計 260名 電話・メール相談　　小学生4 中学生85　高校生19 他0　計 108名 ○通室活動実績 中学生７名の通室があった。（通室日は学校出席日数に換算）※小学生なし ○スクールカウンセラー(SC)の配置（小学校担当１名、中学校担当１名） ・年間配置数は野辺地小24日、若葉小24日、野辺地中40日 ・延べ相談者数は野辺地小23名、若葉小18名、野辺地中58名 ○巡回訪問 ・発達障害や家庭での保護者の関り等に起因する支援が必要な場合は、ＳＳＷや主任教育相談員が学校に出向き支援に当たる。

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	ほぼ毎日通室している生徒もいるが、学校に通いながら週２、３回程度通室しているこどもたちが多い。相談員は、それぞれの学校との情報共有と連携を大切にしながら、通室生の実情に即した学習支援を行っている。また、教育相談室は、保護者や児童生徒、学級担任などが気軽に近況を報告したり、相談したりすることができる場になっている。	
今後の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・不登校児童生徒の居場所の一つとなっているし、その傾向が見られるこどもたちが校内にいた場合、相談窓口にもなっている。継続していただきたい。

・これからも、相談や通室しているこどもたちや保護者が安心できる相談室の継続をお願いする。

・継続を望む。

・多くの相談・活動実績があり、今後も継続していくべき事業と考える。

・中学校の相談が多いのがとても気になる。年々数字が増えているように思うので、もっと踏み込んでいってみても良いのではないか。

評価委員意見（令和7年度）

・主任相談員の存在は、各校に訪問していただいているので知っている先生方も多いが、もう一名いらっしゃるのはほとんど知られていない。周知の徹底を。

・不登校児童は、全国的に増加しており、継続していくべき。併せて、学校との情報共有もこれまで以上に進めてほしい。

・これからも期待が大きいと思う。

・相談することで心のケアになると思う。続けてほしい。

・学校に通えない児童・生徒の居場所のひとつとなっているので、これからも継続していただきたい。

事務事業評価シート

施　策　名	みんなで支えるこどもの育ち（学校や地域でのつながり）	担当課名	学校教育課
事務事業名	小・中学校作品展及び音楽交歓会の開催	担当者名	坪　さくら

事業の目的・内容	小中連携事業の一環であり、特に音楽交歓会においては、幼稚園や保育園と交流する機会を設けたりしている。			
事業の対象	町内の幼児、児童生徒			
事　業　費	年　度	令和　6　年度決算	令和　7　年度決算	令和　8　年度予算
	金　額	60 千円	60 千円	60 千円

事業の実績・成果等（数値）	○作品展 描画・版画合わせて161作品から入賞作品63点が選ばれた。 入賞作品を各学校に移動展示し、来校者に見てもらう場となっている。 ○音楽交歓会　10月28日（火）野辺地小学校　講堂 各小学校5・6年生、中学校吹奏楽部、わかば保育園の園児が発表を行った。 ※R６年度から町内保育所と幼稚園を１年ごとの順番にゲストに迎えることとなった。

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	作品展及び音楽交歓会について、地域住民へ日頃の学習の成果を発表する場となっているとともに、児童生徒がほかの学校のこどもたちの頑張りを見ることによって、お互いの刺激になっている。 小学校の統合や中学校吹奏楽部の部員数減少に伴い、交歓会の開催について今後見直す必要がある。		
今後の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・音楽交歓会出演において、町内幼保を１年ごとの順番にしたのは良い取組だと思う。作品展示や音楽発表の機会は大事だと思う。

・心が豊かになる活動の一つとしながらも、指導する先生方の負担が大きくならないようにしてほしい。

・各校の交流ばかりではなく、開催を広くＰＲしてもいいのではないか。こどもたちの「やる気」のためにも。

・生徒児童はもちろんだが、地域の方々が学校に足を運び、発表や作品を見てもらうことは喜びにつながると思う。開催方法やみんなへのお知らせ方法に工夫が必要かもしれない。

評価委員意見（令和7年度）

・学校数の減少、吹奏楽部員の減少に合わせ、見直しの時期になっていると思う。

・作品の展示は、地域の方々もこども達との接点になり大事だと思う。交歓会は時代に合わせて見直してもよいのでは。

・作品展はこどもの多様性を発揮できる場である。交歓会はこれまでの歴史もあり、町としてこども達に教える場でもあると思う。続けてほしい。

・町民へのＰＲも積極的に行っていただき地域の皆様にこども達の頑張る姿を見ていただきたい。

事務事業評価シート

施　策　名	みんなで支えるこどもの育ち（学校や地域でのつながり）	担当課名	学校教育課
事務事業名	学童スキー大会の開催	担当者名	柴崎　駿

事業の目的・内容	①町内学校の冬季体育（学校スキー）を通して、運動能力の向上を図る。 ②大会参加を目指して練習・努力する過程を通して、人間性の育成を図る。 ③ルールに従い培った能力を表現する活動を通して、正しい競技参加能力を育てる。
事業の対象	小学６年生（例年であれば小学４年、５年、６年生）

事　業　費	年　度	令和　6　年度決算	令和　7　年度決算	令和　8　年度予算
	金　額	80 千円	175 千円	190 千円

事業の実績・成果等（数値）	教育振興会主催の事業であり、運営に係る費用は町からの補助金となる。 R1　通常の形態での開催（新型コロナウイルス感染症の感染拡大前） R2　参加児童を小学６年生に限定して開催 R3　開催中止（新型コロナウイルス感染症の影響による） R4　参加児童を小学６年生に限定して開催 R5　開催中止（雪不足と悪天候の影響による） R6　参加児童を小学６年生に限定して開催（会場縮小） R7　参加児童を小学６年生に限定して開催（会場が通常どおりに）

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題	本年度は会場が再び利用可能となったため、会場を広く利用し円滑な進行ができた。各部門参加者が減少したものの、結果として広く、安全を確保しながら余裕があるタイムスケジュールで、かつコンパクトな大会運営が実施できた。学校統合に向け、大会の在り方を含めて今後も検討しつつ、可能な限り実施していきたい。
今後の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	B

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・コンパクトな大会運営により、負担軽減につながったと思う。可能な限り継続をお願いする。

・スキー場の使用場所が限られているのは大変残念としか言いようがない。今後も続けていけるか不安であるが、野辺地町としては継続してほしいと希望する。

・学校統合後の大会のあり方は早急に検討すべき。

・スキー発祥の地なのでスキー大会は残してほしい事業であるが、昨年の開催方法を見て大変危険だと思った。アップする場所も狭く、こどもたちが不憫に思えた。

評価委員意見（令和7年度）

・来年度までは、小学校２校なので競い合い、刺激を与え合うのも一つの教育効果だと思う。統合後については要検討。

・アルペンはできなくても、クロスカントリーは継続してほしい。

・雪国ならではの活動なので、できれば続けられたらよいが、将来が不安。

・５，６年へ拡大してほしい。統合したら６年だけでもいいのでは。

・スキー発祥の地として、お手伝い不足やスキー場の環境の変化等、大変なことが多いがなんとか継続していただき、途絶えることの無いよう希望する。

事務事業評価シート

施　策　名	みんなで支えるこどもの育ち（学校や地域でのつながり）	担当課名	学校教育課
事務事業名	生徒指導委員会	担当者名	清水目　唯那

事業の目的・内容	・野辺地町内の小・中・高及び関係機関が一堂に会し、互いの取組や各校の状況について情報共有をし、こどもたちが安心して学校生活を送るための取組につなげる。 ・問題行動への対応や生徒指導上の未然防止策について、学校と関連機関がそれぞれの立場から意見交換を行い、児童・生徒理解と生徒指導担当教員のスキルアップを図る。			
事業の対象	小・中・高生徒指導教諭・野辺地町警察（生活安全課）・上北教育事務所（ＳＳＷ）・教育委員会（指導室）・健康づくり課			
事　業　費	年　度	令和　6　年度決算	令和　7　年度決算	令和　8　年度予算
	金　額	10　千円	10　千円	10　千円

事業の実績・成果等（数値）	○教育振興会主催の事業であり、運営に係る費用は町からの補助金である。 ○年４回の会議を開催し、長期休業中の過ごし方（注意喚起）、登校指導（小・中・高連携で挨拶運動）、生徒指導上の課題や対応について情報交換を行い取組の改善につなげている。

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	各校や関係機関からの情報提供を基に、町内における生徒指導上の課題の把握やそれぞれが実践している効果的な取組を知る機会となっているほか、長期休業中の過ごし方などを中心に児童生徒への指導内容を校種間で確認し合う場となっている。	
今後の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・小、中、高、関係機関が連携して情報共有と意見交換できる機会は重要だと思う。

・担当課評価のとおり。

・継続を望む。

・各学校間の情報共有は必要な取組であり、継続していただきたい。

評価委員意見（令和7年度）

・小中高関係機関が連携して情報交換するこの会は重要と思われる。

・今後、小学校の統廃合もあり、情報共有は今後も重要な取り組みであり継続を望む。

・意見交換が必須なので、その時間を作るのが課題では。

・関係機関の連携は必要。続けてほしい。

・情報、意見交換の場として大変有意義であるとのことなので、これからも継続していただきたい。

事務事業評価シート

施　策　名	みんなで支えるこどもの育ち（学校や地域でのつながり）	担当課名	学校教育課
事務事業名	学校支援推進事業	担当者名	坪　さくら

事業の目的・内容	教員だけでは対応しきれない学校の教育活動を地域住民のボランティアで担っていただくことにより、地域とともにある学校づくりの推進と、児童生徒の健全な育成を地域全体で支えていく機運の情勢を図る。			
事業の対象	各学校			
事　業　費	年　度	令和　6　年度決算	令和　7　年度決算	令和　8　年度予算
	金　額	47 千円	25 千円	52 千円

事業の実績・成果等（数値）	・学校支援ボランティア活動を学校ごとに実施 地域住民の協力・支援の下、登下校の見守り活動、部活動や水泳教室の指導、施設の環境整備などの各種学校活動を安全かつ円滑に実施することができた。 （令和７年度組織状況） 野辺地小学校　見守り隊１４名　学校支援７０名 若葉小学校　見守り隊１４名　学校支援３３名 野辺地中学校　学校支援　８名　合計６９名

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	登校時の見守り活動は、こどもたちの安心感を高めることや、犯罪・事故の未然防止に大きく貢献している。 また、教員の負担軽減とこどもたちの成長支援にも寄与した。 なお、見守り隊員の確保対策として、町広報誌で２回（７月号、１２月号）新規隊員の募集を行ったが、大幅な増員には至らなかった。	
今後の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・見守り隊の高齢化の課題はあるが、学校支援活動は今後も必要な事業だと思う。

・見守り隊の新規の方々の参加を、今後どのような形をとりながら実施していくべきか考える必要があると思う。

・こどもの安全・安心のため継続してもらいたい。ボランティアの確保も年々厳しくなると思われるので、手当支給も考えてはどうか。

・毎年同じ課題があがっているので、本腰を入れて課題解決を望む。

評価委員意見（令和7年度）

・野辺地小に学校支援が入っていないのが不思議に思う。（若葉小は３３名）

・学校側と見守り隊側の情報共有をより深めてほしい。

・重要な活動なので、継続していく事のむずかしさを感じます。

・町、地域とのふれあいは必要。続けてほしい。

・見守り隊の協力なくして、こども達の安心安全は守られないと思うので、なんとか増やす方向で頑張ってほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	みんなで支えるこどもの育ち（学校や地域でのつながり）	担当課名	学校教育課
事務事業名	【新規】高校魅力化推進事業	担当者名	山田　勇一

事業の目的・内容	野辺地高校が取り組んでいる学校の特色化・魅力化を支援し、地元高校への進学希望者数の増加につなげるため、町から以下の補助金の交付を行う。 ①資格取得費補助金 野辺地高校生が各種の検定を受験する際の検定料 ②制服購入費補助金 野辺地中学校から野辺地高校に入学する生徒の制服購入費 ③通学費用補助金 町外から公共交通機関を利用して野辺地高校に通学する生徒の交通費			
事業の対象	野辺地高校生徒			
事　業　費	年　度	令和　6　年度決算	令和　7　年度決算	令和　8　年度予算
	金　額	－　千円	809 千円	1,812 千円

事業の実績・成果等（数値）	■令和７年度事業実績 ①資格取得費補助金　318千円（延べ196人） ②制服購入費補助金　362千円（12人） ③通学費用補助金　129千円（14人） 計　809千円 ■野辺地高校出願倍率 令和8年度（R8.3.5入試）　0.36 令和7年度（R7.3.6入試）　0.28

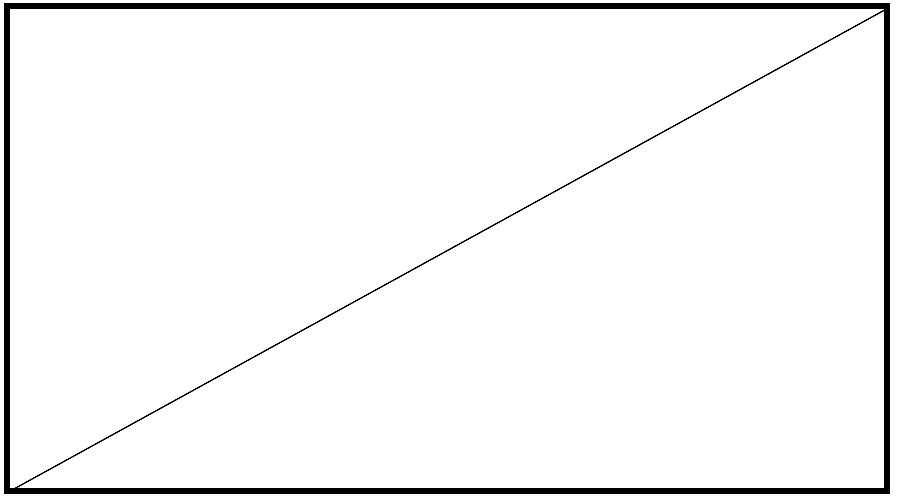
事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	依然として野辺地高校への出願倍率が低い状況にあることから、学校との連携の下、当該事業の認知度を一層高めていく必要がある。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）



評価委員意見（令和7年度）

・これまでの取り組みが花開くことを祈っている。継続し、町内外へアピールしてほしい。

・補助金は継続が望ましいが、学校の魅力向上にこれまで以上に学校側と連携することをお願いする。

・少子化から難しい面もあるが、続けてほしい。

・事業としては大変素晴らしく、家庭のことを考えての取り組みとして大変評価できる。なので、もう少しアナウンスを積極的に行ってもよいのではないか。

事務事業評価シート

施　策　名	みんなで支えるこどもの育ち（学校や地域でのつながり）	担当課名	学校教育課
事務事業名	給食費の無償化	担当者名	寺澤　いづみ

事業の目的・内容	青森県学校給食費無償化等子育て支援市町村交付金を活用し、児童・生徒の保護者が負担する給食費を無償化することにより、子育て世代への経済的支援を図る。			
事業の対象	町内小中学校において給食の提供を受けた児童・生徒の保護者（要・準要保護者を除く）			
事　業　費	年　度	令和　6　年度決算	令和　7　年度決算	令和　8　年度予算
	金　額	18,385　千円	38,209　千円	42,665　千円

事業の実績・成果等（数値）	令和６年１０月から完全無償化とし、令和7年度も継続して保護者への経済的支援ができた。 事 業 費 38,208,580円 県交付金 33,489,240円 町負担分　4,719,340円

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	【成果】近隣市町村では無償化を既に実施している状況の中、当町も県交付金を活用して、保護者への経済的支援ができた。 【課題】県が交付金事業を廃止し、町が独自に事業継続する場合、町負担が大きくなる。		
今後の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・児童の中には、月・水曜日の米飯持参ができていない子もいる。その２日間も給食センターから米飯が提供されることを望む。

・保護者も助かっていると思う。物価高で町の負担も増加すると思うが、継続的な支援を希望する。

・今後、町の負担が増加するのが心配。

・子育て世代への経済的負担軽減は大いに評価できるが、今後の県交付金の動向に左右される不安定さを感じる。

評価委員意見（令和7年度）

・子育て世代の負担軽減になっている。物価高で町の負担も増加するが、月曜、水曜の米持参も給食センターからの提供を望む。

・がんばってほしい。

・今や社会的ニーズ。続けてほしい。

・食材の高騰が止まらない今、無償化は喜ばしいが、町の負担が増えるのではないかとの不安もある。

事務事業評価シート

施　策　名	みんなで支えるこどもの育ち（学校や地域でのつながり）	担当課名	学校教育課
事務事業名	大会派遣費補助事業	担当者名	柴崎　駿

事業の目的・内容	町内の小学校又は中学校に在籍する児童生徒を対象に、スポーツ・文化活動における大会へ参加するための費用を補助する事業。 保護者の負担を軽減するとともにスポーツ・文化活動の振興を図るものである。			
事業の対象	小中学校、スポーツ少年団など			
事　業　費	年　度	令和　6　年度決算	令和　7　年度決算	令和　8　年度予算
	金　額	3,848 千円	3,731 千円	4,645 千円

事業の実績・成果等（数値）	(中学校) 地区大会：吹奏楽 県大会：吹奏楽、陸上、バドミントン、柔道、卓球、ハンドボール、駅伝、スキー 東北大会：ハンドボール、陸上、柔道、駅伝、スキー 全国大会：空手、ハンドボール、駅伝スキー、 ⊡27大会　3,125,022円 (小学校) 東北大会：柔道 全国大会：野球、空手、スキー、 ⊡5大会　605,176円 補助対象経費【補助率】 参加料【２分の１】、交通費【２分の１】※指導者引率者は全額 宿泊費【２分の１】※指導者引率者は全額、その他プログラム購入費等

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	開催される東北大会や全国大会も多く、特に令和６年度と比べ、中学校で本事業を利用した大会数が増加した。 大会費用を補助することでスポーツをするこどもの保護者の負担を減らすために必要である。本事業を町のスポーツ活性化に役立てて、今後とも継続していきたい。	
今後の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・保護者負担を軽減するいい取組だと思う。町民の理解を得て継続していただきたい。

・経済的な理由で大会参加を諦めることがないように、継続をお願いする。

・１団体としての補助金がどう使われているか分からないが、不満や希望・現状に耳を傾けていただきたい。

・広く補助がなされており、今後も継続してもらいたい。

・引き続き継続を希望する。すべての団体に公平に。

評価委員意見（令和7年度）

・引き続き継続を希望。平等に不満のないようお願いしたい。

・上位の大会への負担軽減は必要。続けてほしい。

・スポーツ・文化活動に携わるすべてのこども達に公平に補助されるよう望む。

事務事業評価シート

施　策　名	こどもの学びを支える教育環境	担当課名	学校教育課
事務事業名	学校における働き方改革	担当者名	山田　勇一

事業の目的・内容	令和８年３月に策定した「野辺地町立学校における働き方改革プラン」に基づき、教職員の負担軽減と働きやすい環境整備を推進し、学校教育の質の向上につなげていくものである。			
事業の対象	教職員			
事　業　費	年　度	令和　6　年度決算	令和　7　年度決算	令和　8　年度予算
	金　額	453 千円	3,610 千円	4,547 千円

事業の実績・成果等（数値）

■令和７年度の主な取組
- 学校閉庁の実施
  令和7年8月12日（火）～15日（金）
- 統合型校務支援システムの構築
  児童生徒の出欠、成績、学習履歴などの管理や指導要録作成等の教職員の事務負担の軽減
- 保護者連絡ツール「tetoru」導入
  学校からのお知らせ配信や保護者からの欠席連絡などの負担軽減
- 学校部活動の地域展開に向けた取組
  関係委団体との協議、町推進計画の策定

■令和７年度の教職員１人当たり時間外労働時間
- 小学校　月16.9時間（参考：[R6]21.5時間）
- 中学校　月42.2時間（参考：[R6]42.8時間）

事業の評価（自己評価）

必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題

小・中学校ともに、教職員一人当たりの時間外労働時間が昨年度から減少しており、取組による一定の効果は認められる。
一方で、中学校の時間外労働時間数は未だ高い水準で推移していることから、引き続き時間外労働の削減に努めていく必要がある。

今後の方向性

□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する
□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	B

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・様々な形で教育委員会の「学校を変える働き方改革」支援は行われていると思う。後は学校の教職員の意識改革や国のカリキュラム改善になってくると思う。

・すぐに大きな成果が出るのは難しいと思うが、継続して長時間勤務の改善につながることを期待する。

・先生方は、忙しさの中でも努力していると思う。

・教職員の働き方改革は重要な事項であり、積極的に進めてもらいたい。

・部活の地域クラブ化、支援員の配置、ボランティアと様々な手助けをしているのにもかかわらず、残業が減らない理由を明確化してほしい。

評価委員意見（令和7年度）

・町教委としては、よく取り組んでくれている。だが、結局のところ県費負担教員が欠員になると、その取組の成果も半減してしまう。

・「tetoru」への移行時期ではあるが、依然として紙での案内が多い。欠席連絡は以前より親の負担軽減になっている。

・これからも改善を頑張ってほしい。

・連絡ツール導入で負担軽減は良いと思う。残業の減としては、民間のようにノー残業デー的な試みが必要ではないか。

・中学校の残業が何故なかなか減らないのか疑問もある。努力はしているのだと思うが、成果があらわれず先生という職業が大変だというのが伝わってくる。

事務事業評価シート

施　策　名	こどもの学びを支える教育環境	担当課名	学校教育課
事務事業名	小学校改築事業	担当者名	駒井　洋

事業の目的・内容	既存校舎の躯体・設備全般における老朽化の解消と、学校の小規模化による諸問題の解消を図るため、国庫補助金を活用しながら統合小学校の新築を行うもの。			
事業の対象	野辺地小学校改築工事及びその他関連事業			
事　業　費	年　度	令和　6　年度決算	令和　7　年度決算	令和　8　年度予算
	金　額	72,350 千円	112,479 千円	748,111 千円

事業の実績・成果等（数値）

令和４年度の予備調査、令和５年度の追加調査を基に、国庫補助要件となる耐力度調査の本調査を実施したところ、調査した全ての箇所が４，５００点の基準を下回り、危険な状態であることが判定されました。令和６年度には基本設計・測量業務・地質調査業務、令和７年度には実施設計を実施しました。

○統合小学校新築事業検討委員会（全5回）
○統合小学校新築事業関連業務
・野辺地小学校改築工事設計業務　［決算額：111,246,300円］
・建築確認に係る確認申請手数料等　［決算額：　1,232,400円］

事業の評価（自己評価）

必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている

評価説明及び考察、課題

教職員、保護者、議員、一般町民からなる検討委員会において、仕様・機器等の詳細を検討・議論を行いながら、実施設計を完了しました。また、児童や保護者等へも設計内容の説明を行った。
事業費について、人件費、材料費等の高騰をがあったが、設計内容を精査し、想定していた事業費内に収まった。

今後の方向性

■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する
□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	A

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・来年度から始まる工事に向けて会議も大詰めを迎えている。後世に誇れる事業となってほしい。

・担当課評価のとおり。

・教育の町・野辺地町の今後の歩みに望みを持ちつつ進めてほしい。

・事業が本格的にスタートしており、関係者の議論を深め、事業を計画的に進めてもらいたい。

評価委員意見（令和7年度）

・間に合うのか心配である。

・教育の町として、地域から誇られる学校にしてほしい。

・事業の推移を見守りたい。

事務事業評価シート

施　策　名	こどもの学びを支える教育環境	担当課名	学校教育課
事務事業名	英語で元気なまちづくり事業	担当者名	濱田　健太郎

事業の目的・内容	英語指導を行う外国語指導助手（ＡＬＴ）の派遣事業。小学校からの英語コミュニケーション能力の育成により、中学校への円滑な移行を図るとともに、英語教育に順応しやすい児童生徒の育成を図る。			
事業の対象	児童生徒、一般町民			
事　業　費	年　度	令和　6　年度決算	令和　7　年度決算	令和　8　年度予算
	金　額	11,437 千円	12,705 千円	12,722 千円

事業の実績・成果等（数値）	令和３年度から外国青年招致事業（JETプログラム）によるＡＬＴを小学校２校に１名、中学校に１名配置し、担当教員が行う授業の補助をしている。 令和７年度は、ＡＬＴ１名の交代により、トリニダード・トバゴから新たなＡＬＴを招いた。新ＡＬＴが担当する小学校では、授業や休み時間での積極的な関わりを通して、日本と異なる文化に対する理解が深まった。また、中学校では、２年目となるＡＬＴと連携し、授業や英語部の活動を充実させることができた。

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	令和７年度は、学校での授業に重点を置くために、英会話クラブ（図書館サークル）への参加を休止した。時間的なゆとりを確保できた際には、英会話クラブ等への参加を再開し、多くの方々との交流を大切にした活動ができるように努めていきたい。		
今後の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・町によっては、保育園や幼稚園にも年数回派遣しているところもある。可能であれば検討していただきたい。

・担当課評価のとおり。

・町内で英語を中心とした集い（イベント等、例えばクリスマス会）をしていみたら楽しいと思う。年に一度でも英語でコミュニケーションをとっても良いのでは。英語が好きになる場も必要と感じている。

・英語教育は必要であり、続けていくべきと考える。

評価委員意見（令和7年度）

・小中３校に対して２名のＡＬＴがいることはすばらしい。

・ＡＬＴとの情報共有をより深めてほしい。小学校から中学校に入学し、英語が苦手になる子も多い。小学校との中学校での情報共有も必要では。

・社会のコミュニケーション能力のひとつであり、続けてほしい。

・学校以外での地域の方々との交流の場が増え、児童生徒以外の方も英語に興味を持ってもらえたら更に良きものになるのではないかと思われる。

事務事業評価シート

施　策　名	こどもの学びを支える教育環境	担当課名	学校教育課
事務事業名	ＩＣＴ環境整備事業	担当者名	柴崎　駿

事業の目的・内容	国は「ＧＩＧＡスクール構想」を掲げ、児童生徒１人１台端末の実現とそれらの高速大容量の通信を可能とする環境の構築を推進するため、これらに係る補助金が新設された。 本事業は、こどもたちの資質・能力を一層確実に育成できる教育ＩＣＴ環境の実現を図るとともに、活用のための研修を実施するものである。			
事業の対象	町内小・中学校			
事　業　費	年　度	令和　6　年度決算	令和　7　年度決算	令和　8　年度予算
	金　額	8,413 千円	69,581 千円	23,838 千円

事業の実績・成果等（数値）	■ICT支援員の配置 青森大学ソフトウェア情報学部の学生３名をICT支援員（採用形態は会計年度任用職員）として採用し、授業や校務でのICTサポートを主な業務として１年間任用した。 ■学習用コンピュータの更新（青森県共同調達） ・ｉＰａｄ（小・中学校３校分）　７２７台 〇購入金額　46,542,540円　〇県補助金　24,236,000円 ■教職員用ノートパソコン（小・中学校３校分）　７４台 〇購入金額　14,520,000円

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている

評価説明及び考察、課題	学校におけるICTは、「とにかく使えばよい」というわけではなく、授業において、より効果的に指導するためのツールとして使うべきものである。現状としては、先生方の創意工夫により多様に活用されている。 今後は、校務の効率化のために必要な事業を行っていくことが必要であり、教員の業務効率化による働き方改革を行い、教員の業務負担軽減、教材研究の時間確保、児童生徒と接する時間の確保へとつなげることが、町の教育施策として重要である。
今後の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	A

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・支援員の方には学校の要望を受けたシステムを開発していただいて助かっている。都会の学校のように、また県立学校のように学校ＨＰを立ち上げて、更新作業をお願いできないか。

・今後もＩＣＴ活用のためのサポートは必要だと思う。

・継続を希望する。

・成果は上がっていると思われるが、ＩＣＴ支援員のスキルはどうなのか。

・ＩＣＴ支援員のおかげで先生方の負担が減るとともに、誰が見ても分かる見える化が浸透してきていると思う。

評価委員意見（令和7年度）

・機器及び支援員の配置とてもありがたい。すごく助けられている。

・先生方の負担軽減にも繋がるので、継続を希望する。

・現代社会の必要ツールであり、続けてほしい。

・継続を希望する。

事務事業評価シート

施　策　名	こどもの学びを支える教育環境	担当課名	学校教育課
事務事業名	理科支援員の配置	担当者名	柴崎　駿

事業の目的・内容	理科の観察・実験活動の充実を図るため、観察実験のアシスタントとして、観察・実験活動に使用する設備等の準備、調整、片付けや試薬等の調整、調合を行う理科支援員を設置する。			
事業の対象	町内小学校			
事　業　費	年　度	令和　6　年度決算	令和　7　年度決算	令和　8　年度予算
	金　額	1,880 千円	2,150 千円	2,384 千円

事業の実績・成果等（数値）	○理科支援員の配置 理科支援員１名を町内小学校に配置。３年生から６年生の観察実験のアシスタントをする。 月・木：若葉小 火・金：野辺地小 ※馬門小学校の閉校により、令和５年度から週４日勤務 ○実績 ３年生　２１時間(光の的当て実験に使う用具の準備　) ４年生　３３時間(人体骨格標本を使った実験の補助　など) ５年生　３０時間(食塩を水に溶かす前と後の重さを調べる実験の補助　など) ６年生　１０３時間(豆電球とＬＥＤの消費電力の違いを調べる実験の補助　など)

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	理科支援員に実験中の様々な支援をしてもらうことで、安全・安心な授業を行うことができている。 また、教員にとっては実験器具の準備や片付けの時間を他の業務に充てることができ、働き方改革にもつながっているため、今後も継続したい。		
今後の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A

評価委員意見(参考:令和6年度の評価意見)

・学校現場として大変助かっている。今後も継続していただきたい。

・十分に成果が上がっていると思う。

・専門の支援員の必要性があるので、今後も継続していただきたい。

・体制も整備されてきているようであるし、是非継続してもらいたい。

・働き方改革を踏まえ、支援員により先生方の負担が減っていることは良いことだと思う。できる限り続けてほしい。

評価委員意見(令和7年度)

・今後も継続してほしい。

・先生方の負担軽減にもなるので、継続を希望する。

・専門の支援員の方には感謝です。

・専門性もあり必要と考えるので続けてほしい。十分な成果があがっている事業なので継続を希望する。

事務事業評価シート

施　策　名	こどもの学びを支える教育環境	担当課名	学校教育課
事務事業名	教育広報の発行	担当者名	山田　勇一

事業の目的・内容	町の教育活動や施策などの情報を分かりやすく伝えるための広報誌「のへじの教育」を発行し、地域全体の教育意識向上と協力体制の強化を図る。 平成23年度から実施し、令和２年度からは年１回の発行としている。			
事業の対象	町民一般（各家庭に毎戸配布）			
事　業　費	年　度	令和　6　年度決算	令和　7　年度決算	令和　8　年度予算
	金　額	99 千円	106 千円	164 千円

事業の実績・成果等（数値）	教育広報「のへじの教育（第19号）」を作成し、令和８年４月１日に発行した。 ■配布方法 ・毎戸配布　　約5,200世帯 ・町公式ライン　電子版掲載 ■主な掲載内容（全６ページ） ・祭り担い手育成事業 ・令和８年度町教育費予算概要 ・教育ニュース（各課、各学校の取組） ・中学校部活動の地域展開に向けた取組

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	・　町広報誌や学校だよりでは紹介しきれない教育委員会業務、学校活動などを掲載し、教育の透明性に高めている。 ・　これまでの毎戸配布に加え、今回から町公式ＬＩＮＥでの配信を行った。	
今後の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・町民の、学校や教育行政の理解促進につながっている。

・ニーズはあると思うので、継続をお願いする。

・継続を望む。

・やはり教育広報として年１回は寂しく感じる。複数回の発行を目指しては。

・ＬＩＮＥからも閲覧できるデジタル化を強く望む。町の情報がＬＩＮＥで一目で分かるのはとても便利で、安心して暮らせる町づくりに役立っていると思う。

評価委員意見（令和7年度）

・今後も継続してほしい。

・良い取り組みだと思うので、年数回の発行を希望する。LINE配信は便利なので継続をお願いする。

・続けてほしい。

・年1回の発行ではあるが、中身の充実に加えLINEでの配信を行い、積極的な行動が伺える。